

大動物事業部

＜5月の相場動向＞

5月のゴールデンウィークにかけて牛肉の需要は外食、小売需要ともに回復傾向に転じたが、GW後の中旬以降は再び低迷状態に戻り、枝肉相場は和牛を中心に不振の度合いを強めた。不況による消費の冷え込みで外食需要は落ち込み、末端から引き合いは価格訴求品のみとなり、ロイン系の高級部位の需要が弱く、在庫過剰感が顕在化した。特に、焼肉シーズンで需要に盛り上がり期待したが、生食による食中毒事件が大きく影響し、焼肉店をはじめ外食需要が落ち込み、5月の後半の枝肉相場は畜種、等級に関わらず予想外の急落となった。更に、景気好転の兆しが見られない中で、福島原発による風評被害、自粛ムードの広がりや従来よりも需要が弱く、その中でも福島県産の牛肉は風評被害の影響を大きく受けているようだ。

＜5月牛枝肉月間価格＞

7月は例年どおり梅雨が明けるとともに消費はあまり期待できなさそう。梅雨明けとともに焼肉商材の消費に弾みがつき、枝肉市況は全般に小戻し、低価格志向の根強さから部位による需要の片寄りも目立ち、一気に相場が上昇するとは思えない。7月は季節的にも焼肉中心の夏型料理期になるうへ、ボーナス支給後の家庭内消費が増加するのと、お中元材料の手当などが入るために6月よりもいくらかの需要増が見込まれそう。需要動向は牛肉料理が焼肉需要に移行する消費形態の上に、夏に備えて家計出費が押さえられるだけに消費はあまり期待できないかもしれない。しかし、売れ筋は和牛と交雑種の2、3等級を中心に、量販店の販売促進もあって出荷頭数が減少していることから前年よりも需要が伸びる可能性もありそう。今年も原発の不安などにより先行きの需要が依然不透明な状況にあり、家庭内需要も低迷しているうへに、生食事件の反動で焼肉需要の落ち込みが懸念され、しばらくは厳しい需要動向が続くそう。

和牛去勢

A5 2,047円 (前年同月比99.4%) (前月比103.2%)
A4 1,695円 (前年同月比101.1%) (前月比100.6%)
A3 1,494円 (前年同月比101.2%) (前月比98.0%)
A2 1,304円 (前年同月比99.5%) (前月比93.9%)

交雑去勢

B4 1,286円 (前年同月比102.2%) (前月比98.9%)
B3 1,190円 (前年同月比102.8%) (前月比96.4%)
B2 1,086円 (前年同月比101.7%) (前月比93.6%)

乳牛去勢

B3 月間上場なし
B2 631円 (前年同月比88.1%) (前月比86.4%)

＜7月の全国出荷頭数予測＞

農水省統計部が発表した4月の食肉流通統計によると、全国成牛と畜頭数は前年同月比3.7%減で、10万2,447頭となった。そのうち和牛は0.8%増の4万4,396頭に

なった。一方、交雑種は2万839頭(18.4%減)と2ヶケタ減となったが、乳牛去勢は2万1,041頭となり、前年同月よりも10.1%の増と昨年の10月以降大幅な増加が続いている。7月は家畜改良センターの個体識別情報や農水省の畜産統計などから推測すると、和牛の出荷頭数は飼養動向や出荷動向から前年同月比102%前後が予測される。一方、乳牛去勢と交雑種は最近の出荷動向と分娩動向から推して前年同月比96%前後になりそうだ。

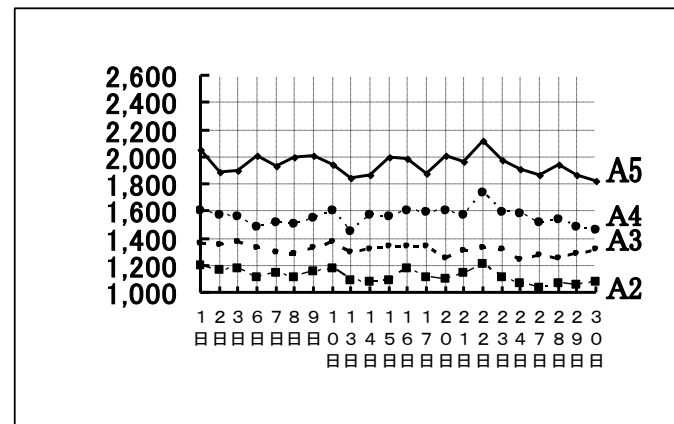
＜7月の牛肉輸入量予測＞

4月の牛肉通関量はチルドが1万8,596トン(前年同月比10.4%減)と一割減だったのに対し、フローズンは2万9,433トン(同25.3%増)大幅に増加したことにより、合計では4万8,030トン(同8.6%増)と前年同月を大きく上回った。震災以降の消費自粛ムードで外食店の売り上げが減少、節約志向も強まり、低価格の輸入肉の需要が拡大して、特に円高ドル安で米国産が伸びたようだ。最近では国内の牛肉需要が景気の低迷が続く中で、生食の食中毒問題で牛肉の消費が冷え込んだままで、焼肉店やファミリーレストラン等の外食向け需要の不振が顕在化しているようだ。このような状況の中で、豪州産は肉牛の保留意欲の高まりを背景に現地価格の上昇や豪州ドル高による影響で減少が見込まれるが、一方で米国産は高値傾向の豪州産からのシフトすることなどから、円高、米ドル安の影響で豪州産と比較すると値ごろ感が見えてきたことから供給面も増加基調が見込まれそう。昨年7月の輸入量は4万3,211トンだったが、豪州産、米国産がともに為替や産地価格が高止まりの状況にあるうへに、国内のマーケット事情の悪化等から夏場にかけて輸入にブレーキがかかる可能性もあり、米国産牛肉の輸入量が増加しても7月の輸入量は4万トン前後になりそう。

＜7月の牛枝肉価格予想＞

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,000~2,100	B4	1,250~1,300
A4	1,600~1,700	B3	1,150~1,200
A3	1,400~1,500	B2	1,050~1,100
A2	1,200~1,300		
乳牛去勢			
B3	750~800		
B2	600~650		

和牛去勢日別相場表 (6月度)



小動物事業部

食肉流通統計によると5月の豚全国と畜頭数は129万5,789頭(前年同月比99.6%)となった。また、5月分の豚肉通関実績は総量で6万4,170トン(前年同月比99.1%)、内チルドは1万9,123トン(同111.6%)、フローズン4万5,047トン(同94.6%)となり、チルドの国別輸入量は米国が(同10.8%増)、フローズンは米国が(同12.7%減)、カナダ(同37.9%減)、デンマーク(同7.6%減)が目立った。

＜6月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	57,600	526	502	552
2日	59,600	533	513	651
3日	59,600	551	548	489
6日	58,400	576	563	537
7日	66,600	581	562	750
8日	55,700	583	555	641
9日	63,500	579	560	483
10日	61,400	564	523	499

全国と畜頭数は6万頭前後まで減少した。昨年の猛暑の影響で豚の受胎率が下がり出荷頭数が減少したことが最大の要因である。こうしたことから上物価格は500円の前半から500円後半まで急騰した。国産部分肉の売れ筋はスソ物が好調ながらロイン系の不調が続いた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	60,700	560	516	480
14日	63,800	554	511	752
15日	57,900	521	483	580
16日	61,500	523	490	525
17日	59,900	521	480	596
20日	59,500	520	473	424

上旬と同様に全国と畜頭数は6万頭前後の水準と少なく、しばらくはこうした生産状況が続くと考える。豚価格の高値取引に反して、国産部分肉の売れ筋は安い部位のみ、肩ロース・ロース肉は動きが見られず急速に買いが弱まった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	62,400	532	499	604
22日	57,200	499	476	510
23日	59,800	515	492	600
24日	59,500	530	513	522
27日	59,700	494	474	551
28日	59,900	528	500	868
29日	57,900	529	512	538
30日	57,900	553	543	410

全国と畜頭数は6万頭を割り込む日が多くなった。国産部分肉動向は好転の兆しが見られず、量販店、スーパー等の輸入チルドへの切り替えが見られ、取引価格は軟調に推移した。

この結果、東京食肉市場の上場頭数は1万2,590頭で前年同月比94.9%となった。

＜7月豚枝肉相場見通し＞

7月の全国と畜頭数は農水省によると約126万6,000頭(前年同月比96.0%)の予測で、一日当たりでは約6万

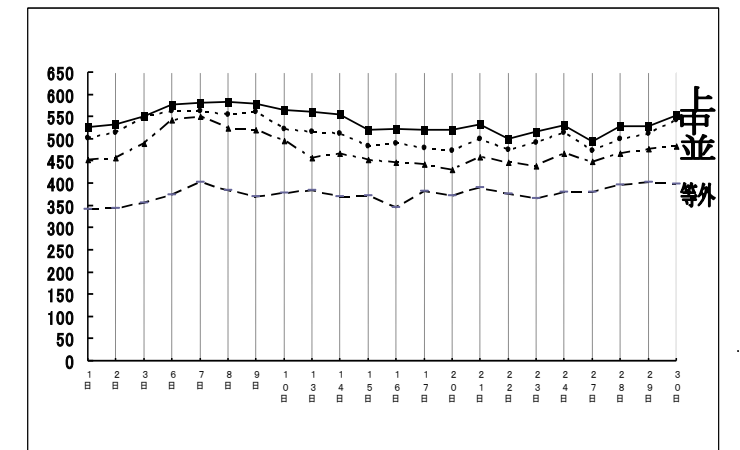
3,300頭(営業日数20日)となっている。

また、当市場の6月末での7月の出荷頭数申し込み状況は約1万2,000頭となっており、一日当たり600頭となる見込みである。

農畜産業振興機構による7月分の豚肉輸入見込数量は、6月に比べ総量では若干減少予測となっており、内訳は冷蔵品で2万トン弱(前年比102.0%)、冷凍品は4万5,000トン強(同92.0%)である。また4月の豚肉推定在庫量は、国産は2万5,731トン(前月比101.8%)、輸入は14万7,621トン(同99.3%)となり、全在庫量は18万835トン(同99.3%)となった。この事は豚肉需要期に合わせた輸入増があったものの、低価格品が好調だったため前月並の水準となっている。また、5月の食肉購買動向調査を見ると、食肉全体では前月比105.4%となり消費量は持ち直す傾向にある。内訳は牛肉が同3.5%増、豚肉は同3.3%増加し、輸入チルドは同9.7%増と消費の伸びが目立つ。鶏肉は同9.2%増加し、国内鳥インフルエンザの影響は薄れてきた。6月に入っても購買動向に変化は見られず同様に推移しているようだ。

こうした需給状況の中で、7月の全国肉豚出荷予測は一日当たり約6万頭強の予測からすると、依然として国産豚肉は不足状況にある。反面、豚のチルド輸入量は2万トン超えが確実に国産価格が急騰した場合は輸入品へのシフトを懸念する。また震災の後遺症や原発の影響が引き続き心配される中で、平年より早い梅雨入りとなった事は、豚の生産現場に少なからず影響が出て来るものと思われる。また後半からは夏期休暇入りで、ここまで相場の牽引役であったスソ物部位も一時的には鈍化する事も予測される。よって、7月の月間加重平均は「上物500円前後、中物470円絡み」と予測する。

豚日別相場表(6月度)



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL 03-3740-3111
FAX 03-3472-0127
URL <http://www.tmmc.co.jp/>